

【予算額 33,018百万円】

＜内 訳＞	●水質の汚濁の防止および改善	15,172百万円	●施策の実施に資する調査研究	294百万円
	●水源のかん養	9,179百万円	●施策に取り組む主体、推進体制の整備	94百万円
	●生態系の保全および再生	1,531百万円	●施策の実施に資する体験学習を通じた教育、その他	1,802百万円
	●農林水産業、観光、交通その他の産業の振興	4,946百万円		

計画の重点事項

琵琶湖を『守る』取組

- 水源林整備保全、鳥獣害対策
(水源かん養機能維持、流木・土砂対策
ニホンジカ、カワウ対策等)
- 生態系、生物多様性保全
(ヨシ群落、内湖等の保全再生等)
- 外来動植物対策
(オオバナミズキンバイ等防除、
防除手法の検討、外来魚対策等)
- 水草対策
(刈取り除去、対策手法の検討等)
- 水産資源の回復
(種苗放流、漁場の整備保全等)

琵琶湖を「守る」ことと「活かす」ことの好循環をさらに推進



琵琶湖を『活かす』取組

- 山村の再生、しがの林業成長産業化
(山村資源を活かした取組、森林資源の循環利用等)
- 「世界農業遺産」認定に向けた取組
(環境に配慮した農業、生きものを育む水田づくり等独自システム)
- 環境関連産業の振興
(水草の有効利用に係る技術支援、水環境ビジネス等)
- 体験・体感による琵琶湖とのふれあい推進
(エコツーリズム、琵琶湖と親しむスポーツ等)
- 琵琶湖漁業の持続的発展
(琵琶湖産魚介類の消費拡大・流通促進、新規就業者の確保等)

「支える」取組

調査研究

- 国立環境研究所琵琶湖分室と琵琶湖環境科学研究センターとの共同研究、連携強化
- 琵琶湖における調査研究成果のデータベース化と知見等の共有・活用
- 新たな水質管理手法の検討

多様な主体による協働

- これまでのNPOや関係団体中心の協働に「事業者」「大学」も加わった仕組みの構築
- 下流域住民や学生、団体との協働(清掃活動、琵琶湖水源林の保全整備等)
- ボランティア活動の推進

発信、環境学習

- ビワイチなどの推進による琵琶湖の魅力発信
- 国内外への情報発信
- 体験型の環境学習(農業体験、森林・林業体験、魚を学ぶ体験学習、学習船「うみのこ」、琵琶湖博物館等)